

D-17 老人の家庭生活と意見について(第3報)

嫁と同居する姑の場合

福島大 岡村 益

1. 家庭における老人の地位および適応状態を明らかにし、また、老人にとっての3悪といわれる不健康・孤独感・経済問題がどうなっているかを知って今後の老人のあり方への指針を得ることを目的とする。その1においては家庭老人の概況を捉え、その2では別棟隠居の実態を報告した。今回は拡大家族の問題点の一つである嫁姑同居の実態を姑側から捉えた。社会変動期におけるさまざまな新旧の問題の所在を明らかにして、同居の場合の両者の関係調整の資料を得ようとした。

2. 個別面接による聴取法。質問紙作製に当たっては牛島氏の調査項目やまとめ方を参照した。調査対象地は福島市。旧市内中心区と周辺住宅地および近郊農村とし、職業としては商家・給与生活者・農家の3種とし、それぞれの経済基盤や生活様式との関連でみようとした。各グループ100戸を目ざして279例を得た。

3. 両者の関係を総合的にみて、A適応良好、B普通、Cかなり問題があるの3種に分類し、各項目との関連をみた。有意差ありと認められたのは、姑の年齢、姑の部屋の有無、嫁の小遣源泉、幸福感などである。すなわち、趣味・行動意欲・配偶関係・嫁づとめ経験年数等よりも、日常的な行動面の方がより多く影響している。同居しつつもある程度の生活の分離、嫁の自立性を認めることおよび姑の加齢とともに嫁への依存度が大きくなり適応がなされて行くという二側面がみられた。